この解答速報の著作権はＴＡＣ(株)のものであり，無断転載・転用を禁じます。

問題14　正解　1　　難易度　A

【出題内容】

理論（正誤）　原価管理

【解　説】

非常に容易な問題であるため，確実に正答して欲しかった。

ア．正しい。P306

イ．誤　り。　原価改善は量産段階においてなされる活動である。P308

ウ．正しい。P301(3)及び脚注3

エ．誤　り。　原価企画を効率的に行うためには，ラグビー方式が適している。P306

オ．誤　り。　理想的には，許容原価が目標原価とされるが，実際は許容原価と見積原価を摺り合わせて目標原価が設定される。P301 折衷方式

以上より，正しいものはア，ウであり，正解は１となる。

この解答速報の著作権はＴＡＣ(株)のものであり，無断転載・転用を禁じます。

問題16　正解　3　難易度　B

【出題内容】

理論（正誤）　品質原価計算

【解　説】

落ち着いて問題を読み，正答に辿り着いて欲しかった。

ア．正しい。 P249

イ．誤　り。　品質は設計の段階から作り込まれる。 P248~249、306

ウ．誤　り。　予防コストを重点的にかけることによって，将来の失敗コストの発生を減少させるなど，前２者のなかの予防コストは長期的な性格を有する。 P248

↓品質保証教育訓練、製品設計改善をイメージ

エ．正しい。

オ．正しい。 P249、307

以上より，誤っているものはイ，ウであり，正解は３となる。

「品質原価」の概念は、1950年代に欧米で形成された。（PAFアプローチ）

cf. 原価企画は、1960年代に日本で生まれた手法。（トヨタ）

この解答速報の著作権はＴＡＣ(株)のものであり，無断転載・転用を禁じます。

問題15　正解　5　難易度　A

【出題内容】

理論（正誤）　原価管理（原価企画）

【解　説】

平易な問題であるため，確実に正答して欲しかった。

ア．正しい。P306

イ．正しい。P301

ウ．誤　り。　ＶＥは，「価値＝機能÷原価」と定義される。P301

エ．誤　り。　原価企画では，製品ライフサイクルにおける原価発生原因に注目することで，そのライフサイクルの開発段階で原価低減を目指す活動を行う。P306

以上より，明らかに誤っているものはウ，エであり，正解は５となる。

この解答速報の著作権はＴＡＣ(株)のものであり，無断転載・転用を禁じます。

問題17　正解　3　　難易度　A

【出題内容】

理論（正誤）　品質原価計算

【解　説】

平易な問題であるため，確実に正答して欲しかった。

ア．正しい。P248

イ．誤　り。　品質不具合によって売上機会が消失した場合に生じる機会損失は品質原価に含めるべきである。P247 品質原価計算は，「管理会計」の1つの技法。

ウ．誤　り。　不良品の回収費用は，外部失敗原価として分類される。P248

エ．正しい。P249

以上より，正しいものはア，エであり，正解は３となる。

100万円の教育訓練費(予防原価)をケチって，
1,000万円分の売上を失うようなことは避けたいだろう。P248
↓
このような機会原価(利益の減少分)は，
P248 ①外部失敗原価であると解されている。
覚えておいて！

この解答速報の著作権はＴＡＣ(株)のものであり，無断転載・転用を禁じます。

問題14　正解　2　難易度　A

【出題内容】

理論（正誤）　原価管理（原価企画）

【解　説】

平易な問題であるため，確実に正答して欲しかった。

ア．誤　り。　テアダウンは，ベンチマーキングの手法として利用できる。P306

イ．正しい。P306

ウ．正しい。P306

エ．誤　り。　モデルチェンジのために控除法方式の原価企画を行う場合，新モデルの目標原価は新モデルの予想市価から目標利益を控除して設定され，旧モデルの量産段階での実際原価以下に設定されねばならないわけではない。P301

新型レクサスの目標原価は，現行のレクサスの実際原価以下に設定されねばならないわけではない。

この解答速報の著作権はＴＡＣ(株)のものであり，無断転載・転用を禁じます。

問題15　正解　2　　難易度　A

【出題内容】

理論（正誤）　品質原価計算

【解　説】

平易な問題であるため，確実に正答して欲しかった。

ア．誤　り。　出荷した製品が取引先から返品されたことに伴い生じた補修費は外部失敗原価に分類される。P248

イ．正しい。P248

ウ．誤　り。　出荷先の受注キャンセルによる当該利益減少分（機会原価）は外部失敗原価に分類される。P248

エ．正しい。P248

覚えておいて！

この解答速報の著作権はＴＡＣ(株)のものであり，無断転載・転用を禁じます。

問題13　正解　4　　難易度　B

【出題内容】

理論（正誤）　原価管理

【解　説】

いくつか内容判定に困る記述もあるが，何とか正答して欲しかった。

ア．正しい。P306 1.～6. P307

イ．誤　り。　代表例として，控除法による目標原価の設定がある。P301、306

ウ．誤　り。　活動基準原価計算（ＡＢＣ）の活用によって原価低減活動は行われない。P306のようなことが行われる。ABCはむしろ、量産化後であろう。

エ．正しい。P307

8-7

この解答速報の著作権はＴＡＣ(株)のものであり，無断転載・転用を禁じます。

問題12　正解　6　　難易度　A

【出題内容】

理論（正誤）　原価管理

【解　説】

平易な問題であるため，確実に正答して欲しかった。

ア．誤　り。　製造現場において標準原価を設定する意味はある。P300脚注1

イ．誤　り。　原価企画において，開発・設計段階において設定された目標原価が，量産開始後において，標準原価として設定されるが，標準原価の水準をさらに引き下げることは，考えるべきである。P308～309 原価改善

ウ．正しい。P307

エ．正しい。P301脚注4

以上より，正しい記述はウ，エであり，正解は６となる。

この解答速報の著作権はＴＡＣ(株)のものであり，無断転載・転用を禁じます。

問題11　正解　2　　難易度　A

【出題内容】

理論（正誤）　管理会計総論（管理会計の意義）

【解　説】

平易な問題であるため，確実に正答して欲しかった。

ア．正 P246

イ．誤　定性情報⇒数値で表せないもののこと。「会計」ではない！ P323

管理会計では財務情報と，定量情報といった非財務情報が用いられる。P246

ウ．正 P246 及び脚注3

エ．誤

管理会計情報の役割は経営管理に役立つことに重点が置かれている。P246

以上より，正しい記述はア，ウであり，正解は２となる。　本文の記述は，いずれも財務会計の機能である。

この解答速報の著作権はＴＡＣ(株)のものであり，無断複製・転載を禁じます。

問題 9　正解 1　難易度 C

【出題内容】

理論（正誤）　管理会計総論

【解　説】

見慣れない記述が含まれており，正誤判定が難しいため，後回しにして欲しかった。

ア．正 P320、330、354

イ．正 P402

ウ．誤

管理会計を経営管理の階層によって体系付ける場合，戦略的計画のための管理会計，マネジメント・コントロールのための管理会計，オペレーショナル・コントロールのための管理会計に分類される。P403

エ．誤

オペレーショナル・コントロールとは，特定の課業を有効かつ能率的に実行することを確保するプロセスである。P403

以上より，正しい記述はア，イであり，正解は１となる。

イメージ

戦略 ⇒ 大まかなゴール

戦術 ⇒ 戦略を実現するための具体的な方法

本問は「補講」の内容であるが，上級「補講」や，Web論点別講義「補講」を視聴し，ケアしておいてほしい。

この解答速報の著作権はＴＡＣ(株)のものであり，無断転載・転用を禁じます。

問題 9　正解 1　難易度 B

【出題内容】

理論（正誤）　管理会計総論

【解　説】

判断に悩む記述もあるが，何とか正答して欲しかった。

ア．正　P248

イ．正　P246 及び 脚注3

ウ．誤

管理可能費は，その責任センターの管理者が，その発生額に対して完全な影響を及ぼすことのできる原価というわけではない。　P14

エ．誤

ＢＳＣにおける因果関係とは，四つの視点間の関係も示す。　P404～406
↑補講視聴して！

以上より，正しい記述は，ア，イであり，正解は１となる。

つまり、完全な影響を及ぼすことができなくても、「管理可能費」として扱われることはある！

この解答速報の著作権はＴＡＣ(株)のものであり，無断転載・転用を禁じます。

問題12　正解　2　　難易度　B

【出題内容】

理論（正誤）　原価管理

【解　説】

判断に悩む記述もあるが，何とか正答して欲しかった。

ア．正　P301脚注5、P306、307脚注3

イ．誤

たとえば，承認図メーカーと呼ばれるサプライヤーと共同で設計を行うデザイン・インの活動がある。P306、307脚注4

ウ．正　P308

エ．誤　→量産開始後 P308~309

ＶＥは原価改善においても活用され，原価との関係から，製品やサービスの機能分析に組織的努力が注がれる。これをセカンド・ルックＶＥ(2nd look ＶＥ)ともいう。P301脚注4

以上より，正しい記述は，ア，ウであり，正解は２となる。

8-12

この解答速報の著作権はＴＡＣ(株)のものであり，無断転載・転用を禁じます。

問題12　正解　1　　難易度　B

【出題内容】

理論（正誤）　ＡＢＣ／ＡＢＭ

【解　説】

判断に悩む記述もあるが，何とか正答して欲しかった。

ア．正　P314、315脚注3

イ．正　P317

ウ．誤

未利用キャパシティとは設備の未利用分のみならず，人的資源の未利用分も意味し，人的資源の未利用分も貨幣額で把握できる。P414～415

エ．誤

直接労務費を配賦基準にして製造間接費の配賦を行ったとしても，製造間接費の削減に監督者の注意を向けることができるわけではない。＝一概には言えない、ということ。

以上より，正しい記述は，ア，イであり，正解は１となる。

この解答速報の著作権はＴＡＣ(株)のものであり，無断転載・転用を禁じます。

問題15　正解　4　　難易度　A

【出題内容】

理論（正誤）　ＡＢＣ／ＡＢＭ

【解　説】

ア．誤

ＡＢＣでも，機械運転時間などの操業度関連のコスト・ドライバーを用いることはある。

P315 製品単位レベル

イ．正 P314

ウ．正 P315　バッチ⇒P313脚注1

エ．誤

ＡＢＭによるプロセス改善は，企業活動を顧客の視点から付加価値活動と非付加価値活動に区分する活動分析と，それらの活動量を決定する要因を識別するコスト・ドライバー分析の２つの分析のみから構成されるのではなく，業績測定尺度を設定し，測定・分析する業績分析も含まれる。P316

以上より，正しい記述はイ，ウであり，正解は４となる。

この解答速報の著作権はＴＡＣ(株)のものであり，無断転載・転用を禁じます。

問題15　正解　3　　難易度　A

【出題内容】

原価企画に関する穴埋め問題（計算含む）　P301

【解　説】

用語のみを埋めれば，選択肢を1.か3.に絞ることができ，その上で「オ」を計算すれば，効率的に解答を導けたであろう。空欄（　ア　）～（　サ　）を埋めれば，以下のようになる。

Ｘ光学は高い技術の一眼レフカメラを生産している。これまでは技術の高さを誇り，比較的高い市場価格については気にしていなかったが，最近，技術革新による他国の追い上げによって，価格と品質との兼ね合いが重要であると認識するところとなった。

そこでＸ光学のトップマネジメントは新しい機種を投入することとし，開発段階から原価を作りこむ（**ア：⑩原価企画**）の手法を取り入れることにした。

選択肢1.と2.から気付きたい。

トップマネジメントが市場調査から打ち出した（**イ：⑯目標価格**）は１台あたり（**ウ：⑤**＊1）**50,000**）円であった。これまでの販売価格が60,000円であったので，なんとか大きく原価を下げなければこれまでと同様の目標利益率の20%は維持できない。この（**イ：⑯目標価格**）の下で予想される年間販売数量は10万台と推測された。したがって１台あたり（**エ：⑦許容原価**）は40,000円，総額では（**オ：①**＊2）**40**）億円となる。つまり原価削減目標は１台あたり（**カ：③**＊3）**8,000**）円の減少が求められる。このうち，設計段階で達成されるべき原価が（**キ：⑰目標原価**）となる。このような（**エ：⑦許容原価**）をベースとした目標原価の設定方法を（**ク：⑪控除法**）という。しかしながら，既存製品をベースとした（**ケ：⑭積上法**）では45,000円となる。ちなみに現在の生産条件をすべて同じにして積算した（**コ：⑮成行原価**）は47,000円となった。

中・長期利益計画 P300 脚注5

Ｘ光学のトップマネジメントは，仕様の標準化や部品の共通化を促進し，部品の納入価格の引き下げを試みる中で，（**ア：⑩原価企画**）には（**サ：⑬サプライヤーの疲弊**）などの逆機能といわれるものも生じることを知った。

P307

＊1）１台あたり許容原価40,000円÷（１－目標利益率20%）

＊2）１台あたり許容原価40,000円×予想年間販売数量10万台

＊3）これまでの販売価格60,000円×（１－目標利益率20%）－１台あたり許容原価40,000円

以上より，正解は３となる。

原価@40,000円、販売価格@50,000円であれば、利益率20%となる。

P300～307の内容につき、テキストの記述を覚えるのみではなく、本問の文章を通じて、実務上の適用状況をイメージしてほしい。

この解答速報の著作権はＴＡＣ(株)のものであり，無断転載・転用を禁じます。

見慣れない形式の問題も、指示通りに解くと、簡単であることも多い！

問題19　正解　2　難易度　A

【出題内容】

顧客ライフサイクル・コスティングに関する正誤問題（計算含む）　P307

⇒本問を通じて、ライフサイクル・コスティングについてのイメージをつかんでほしい。

【解　説】

本問は，選択肢イ，エが誤りとわかれば，計算をしなくとも正解は２であると容易に判断することができる。

以下で，甲社，乙社，丙社の資本コストを考慮する場合，しない場合のライフサイクル・コストを求める。

ここでは，各キャッシュ・フローを以下のように示す。（単位：万円）

① 空調設備納入に伴う支出額(C)

② 空調設備運転に伴う支出額(O)

③ 空調設備廃棄に伴う支出額(S)

長期にわたる話⇒貨幣の時間価値を考える！　P330

・甲社

	1年	2年	3年	4年		
COF	C 3,140	O *) 380	O 380	O 380	O 360	
					S 30	
正味CF	3,140	380	380	380	390	→総額：4,670万円
現価係数	1	0.9091	0.8264	0.7513	0.6830	
現在価値	3,140	345.458	314.032	285.494	266.37	

正味現在価値：4,351.354万円→4,351万円

*) 運転費用45万円／月×８か月間（＝夏４か月間＋冬４か月間）＋保守整備費用20万円／年

・乙社

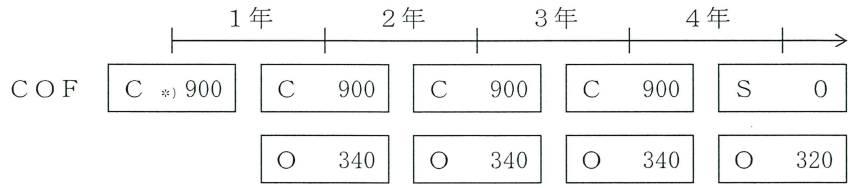
	1年	2年	3年	4年		
COF	C 3,600	O 335	O 335	O 335	O 320	
					S 5	
正味CF	3,600	335	335	335	325	→総額：4,930万円
現価係数	1	0.9091	0.8264	0.7513	0.6830	
現在価値	3,600	304.5485	276.844	251.6855	221.975	

正味現在価値：4,655.053万円→4,655万円

8-160

この解答速報の著作権はＴＡＣ(株)のものであり，無断転載・転用を禁じます。

・丙社



正味ＣＦ	900	1,240	1,240	1,240	320
現価係数	1	0.9091	0.8264	0.7513	0.6830
現在価値	900	1,127.284	1,024.736	931.612	218.56

→総額：4,940万円

正味現在価値：4,202.192万円→4,202万円

*) 納入価額3,600万円× $\frac{1}{4}$

ア．**正しい。**

イ．**誤　り。**　ライフサイクル・コストないしその現在価値が最小になる案が，本問における経済的に最も有利な提案といえる。 P307

ウ．**正しい。**

エ．**誤　り。**　初期投資に必要な資金の調達の制約が極めて大きい場合，最も魅力的な提案は，初期投資額が最も小さい丙案である。

オ．**正しい。**

以上より，正しいものはア，ウ，オであり，正解は２となる。

8-16②

この解答速報の著作権はＴＡＣ(株)のものであり，無断転載・転用を禁じます。

問題 5　正解 4　難易度 A

【出題内容】

計算　伝統的原価計算とＡＢＣ　P313

【解　説】

平易な問題であるため，確実に正答して欲しかった。いかに素早く、正確に解けるか！

1．伝統的原価計算（単位：円）

	製品Ｘ	製品Ｙ	
直接材料費	150,000	100,000	＊1）総括配賦率＊2）1,600円／時間×製品Ｘ＊4）30時間
直接労務費	45,000	75,000	＊2）製間合計800,000円÷直接作業時間合計＊3）500時間
製造間接費	＊1）48,000	80,000	＊3）直労合計750,000円÷実際賃率1,500円／時間
合　計	243,000	255,000	＊4）製品Ｘ直労45,000円÷実際賃率1,500円／時間

何の計算をしているのか、ゆっくり考えてみよう！

2．ＡＢＣ（単位：円）

	製品Ｘ	製品Ｙ	
直接材料費	150,000	100,000	＊1）材料管理＊2）1,500円／回×製品Ｘ16回
直接労務費	45,000	75,000	＊2）材料管理180,000円÷発注回数合計120回
製造間接費			＊3）品質検査＊4）100円／回×製品Ｘ150回
材料管理費	＊1）24,000	9,000	＊4）品質検査80,000円÷検査回数合計800回
品質検査費	＊3）15,000	10,000	＊5）機械関連＊6）80円／時間×製品Ｘ400時間
機械関連費	＊5）32,000	20,000	＊6）機械関連140,000円÷機械運転時間合計1,750時間
合　計	266,000	214,000	

P314

3．選択肢の正誤判断

1. **正しい。**　伝統的原価計算による製造間接費配賦額は製品Ｘが48,000円，製品Ｙが80,000円であり，製品Ｘより製品Ｙの方が多い。
2. **正しい。**　伝統的原価計算による製品原価は製品Ｘが243,000円，製品Ｙが255,000円であり，製品Ｘより製品Ｙの方が高い。
3. **正しい。**　ＡＢＣによる製造間接費配賦額は製品Ｘが＊）71,000円，製品Ｙが39,000円であり，製品Ｘより製品Ｙの方が32,000円（＝製品Ｘ71,000円－製品Ｙ39,000円）少ない。
   ＊）材料管理費24,000円＋品質検査費15,000円＋機械関連費32,000円
4. **誤　り。**　ＡＢＣによる製品原価は製品Ｘが266,000円，製品Ｙが214,000円であり，製品Ｘより製品Ｙの方が52,000円低い。
5. **正しい。**　製品Ｙの製造間接費配賦額は伝統的原価計算が80,000円，ＡＢＣが39,000円であり，伝統的原価計算よりもＡＢＣの方が41,000円少ない。

以上より，正解は４となる。

8-17

この解答速報の著作権はＴＡＣ(株)のものであり，無断転載・転用を禁じます。

問題13　正解　1　　難易度　A

【出題内容】

計算　ＡＢＣ／ＡＢＭ

【解　説】

活動ドライバーの選択に悩むが，確実に正答して欲しかった。なお，製品単位当たり売上総利益の差額は，総括配賦とＡＢＣにおける製品単位当たり製造間接費配賦額の差額と等しいため，両方法による製品単位当たり製造間接費配賦額を計算すればよい。

ABCは製造間接費の話！P312

1．総括配賦

【資料】3.から、まずこれを求めないと話にならないことを読み取る！

	製品Ｘ	製品Ｙ
直接作業時間	＊1) 48,000時間	24,000時間
製造間接費配賦額	＊2) 181,200,000円	90,600,000円

＊1) 製品単位当たり直接作業時間３時間×年間計画生産・販売量16,000個

＊2) $\dfrac{\text{製造間接費総額}_{*3)}\ 271,800,000\text{円}}{\text{直接作業時間合計(製品Ｘ48,000時間＋製品Ｙ24,000時間)}}$ ×製品Ｘ48,000時間

＊3) 機械作業84,000,000円＋品質保証57,600,000円＋材料運搬42,000,000円
＋工場管理活動88,200,000円

2．ＡＢＣ

P314　この例のようなイメージは持てるように！　P315表

コスト・プール	活動ドライバー	製品Ｘ	製品Ｙ
機械作業	機械運転時間	＊1) 33,600,000円	50,400,000円
品質保証	抜取検査回数	＊2) 28,800,000円	28,800,000円
材料運搬	直接材料出庫回数	＊3) 33,600,000円	8,400,000円
工場管理活動	直接作業時間	＊4) 58,800,000円	29,400,000円
合計	－	154,800,000円	117,000,000円

＊1) $\dfrac{\text{機械作業コスト・プール84,000,000円}}{\text{機械運転時間合計(製品Ｘ24,000時間＋製品Ｙ36,000時間)}}$ ×製品Ｘ24,000時間

＊2) $\dfrac{\text{品質保証コスト・プール57,600,000円}}{\text{抜取検査回数合計(製品Ｘ500回＋製品Ｙ500回)}}$ ×製品Ｘ500回

＊3) $\dfrac{\text{材料運搬コスト・プール42,000,000円}}{\text{直接材料出庫回数合計(製品Ｘ1,600回＋製品Ｙ400回)}}$ ×製品Ｘ1,600回

＊4) $\dfrac{\text{工場管理活動コスト・プール88,200,000円}}{\text{直接作業時間合計(製品Ｘ48,000時間＋製品Ｙ24,000時間)}}$ ×製品Ｘ48,000時間

3．製品単位当たり製造間接費配賦額の差額

製品Ｘ：(総括配賦181,200,000円－ＡＢＣ154,800,000円)÷生産量16,000個＝**1,650円**

製品Ｙ：(ＡＢＣ117,000,000円－総括配賦 90,600,000円)÷生産量 8,000個＝**3,300円**

8-18

この解答速報の著作権はＴＡＣ(株)のものであり，無断転載・転用を禁じます。

問題13　正解　2　　難易度　B

【出題内容】

計算　原価管理（原価改善）　P308、309

何度も解いて、解き方をマスターしてほしい、という類の問題ではなく、初見でどこまで粘れるか？ただ、「期別原価改善」（P308）のイメージは、本問で持てるだろう。

【解　説】

計算自体は平易であるものの，焦っていると誤答に引っかかってしまうため，落ち着いて解答し，何とか正答して欲しかった。

１．利益改善目標額（ア）

目標営業利益：売上高228,000千円×目標売上高営業利益率８％＝18,240千円

見積営業利益：売上高228,000千円×(１－変動費率50%)－固定費総額111,180千円

＝2,820千円

利益改善目標額：目標営業利益18,240千円－見積営業利益2,820千円＝**15,420千円**（⑪）

２．変動費削減割合（イ）

変動費削減目標額：利益改善目標額15,420千円－固定費削減額4,020千円＝11,400千円

変動費削減割合：変動費削減目標額11,400千円÷見積変動費*) 114,000千円＝**10%**（②）

*) 売上高228,000千円×変動費率50%

３．製造部門の原価改善目標額（ウ）

$$\text{変動費削減目標額11,400千円} \times \frac{4}{4+4+1+1} = \textbf{4,560千円}\ (⑧)$$

４．Ｐ工場の原価低減目標額（エ）

$$\text{製造部門の原価目標額4,560千円} \times \frac{\text{工場Ｐ}(2,000\text{千円}\times 1.2)}{\text{工場Ｐ}(2,000\text{千円}\times 1.2)+\text{工場Ｑ}(2,160\text{千円}\times 1.0)} = \textbf{2,400千円}\ (⑤)$$

５．α部の原価改善額予算（＊）

Ｐ工場原価低減目標額2,400千円×割当割合40%＝960千円

６．原価改善差異（オ，カ）

(1) 予定生産数量の基での原価改善額（オ）

１月の予定生産量：(売上高228,000千円÷販売単価19千円)÷12＝1,000個

１月の単位当たり原価改善額：原価改善額80,180円÷生産量950個＝84.4円

原価改善額：単位当たり原価改善額84.4円×予定生産量1,000個＝**84,400円**（⑮）

(2) 原価改善差異（カ）

原価改善額84,400円－原価改善額の予算(960千円÷12)＝**4,400円**（⑦）

この解答速報の著作権はＴＡＣ(株)のものであり，無断転載・転用を禁じます。

P308を読んだうえで，下記文章を読んでほしい。

７．穴埋め

Ａ社は，１種類の製品の生産・販売を行っており，期別・部門別原価改善を行っている。次年度の短期利益計画において，以下の〔資料〕1.のように次年度の営業利益の見積りに関わる各種金額・数値の見積りがなされ，〔資料〕2.のように目標売上高営業利益率の設定がなされた。

それに基づき，目標営業利益と見積営業利益の差額である利益改善目標額を計算したところ，(ア：⑪15,420)千円であった。次年度は，企業間競争が激しいことが予想されるため，(ア：⑪15,420)千円を売上高増加で実現するのではなく，原価改善による達成を目指すこととした。

そのための案を管理者会議で議論した結果，変動費を(イ：②10)％削減し，固定費を4,020千円減らすことにより目標利益を達成できることがわかり，その方針で進めることとした。

変動費削減のために，原価改善目標額(利益改善目標額)を製造部門・購買部門・販売部門・一般管理部門に４：４：１：１で割り当てることを決定した。そして，製造部門の原価改善目標額(ウ：⑧4,560)千円を二つの工場Ｐ，Ｑに割り当てた。割当ての方針としては，以下の〔資料〕3.に示す各工場の当年度の管理可能費の金額と係数とを乗じて算出した数値の割合の大きさで割り当てる。

Ｐ工場の原価低減目標額(エ：⑤2,400)千円を，さらに各部へと割り当てた。その結果，Ｐ工場内のα部には，Ｐ工場全体の額の40％の(＊：960)千円が割り当てられた。なお，年次の原価改善目標額は各月に12分の１ずつ配分している。

次年度に入り，α部の１月の生産量を集計したところ950個であり，原価改善額は80,180円であった。予定通りの生産数量であれば，(オ：⑮84,400)円の原価改善額であることから，原価改善額の予算と(オ：⑮84,400)円の差額である原価改善差異は(カ：⑦4,400)円の(＊：有利)差異である。

8-19②

この解答速報の著作権はＴＡＣ(株)のものであり，無断転載・転用を禁じます。

問題12　正解　4　難易度　B

【出題内容】

計算　ＡＢＣ／ＡＢＭ

【解　説】

話としては，P315脚注3の話である。

1．検査回数を用いたＡＢＣ

(1) 製品Ｂの検査回数

製品Ｂの検査回数をＸとすると，問題文の「検査活動によって発生する製品単位当たりの活動原価は，各製品とも同額となった」より，次式が成り立つ。

$$\text{検査活動原価 960,000円} \times \frac{60\text{回}}{60\text{回}+\text{X回}} \div \text{A3,000個} = \text{検査活動原価 960,000円} \times \frac{\text{X回}}{60\text{回}+\text{X回}} \div \text{B1,000個}$$

上式を解くと，Ｘ＝20(回)となる。　60回：X回＝3,000個：1,000個と考えてもよい。

(2) 各製品の直接作業時間の比

従来の原価計算では，直接作業時間を基準に製造間接費を配賦しているため，各製品に配賦された製造間接費の比は，直接作業時間の比と等しい。

製品Ａ：@製造間接費3,500円×生産量3,000個＝10,500,000円 ←
製品Ｂ：@製造間接費5,250円×生産量1,000個＝ 5,250,000円 ← ― Ａ：Ｂ＝２：１

(3) 検査回数を用いたＡＢＣ

	活動原価	製品Ａ	製品Ｂ
購買活動	1,360,000円	*1) 680,000円	680,000円
段取活動	1,250,000円	*2) 1,000,000円	250,000円
機械作業活動	8,960,000円	*3) 5,120,000円	3,840,000円
メンテナンス活動	2,380,000円	*4) 1,904,000円	476,000円
検査活動	960,000円	*5) 720,000円	240,000円
その他の活動	*6) 840,000円	*7) 560,000円	280,000円
製造間接費合計	15,750,000円	9,984,000円	5,766,000円
単位当たり製造間接費	―	*8) 3,328円	5,766円

*1) 購買活動原価1,360,000円÷発注回数(Ａ４回＋Ｂ４回)×Ａ４回

*2) 段取活動原価1,250,000円÷段取回数(Ａ８回＋Ｂ２回)×Ａ８回

*3) 機械作業活動原価8,960,000円÷機械運転時間(Ａ4,000ｈ＋Ｂ3,000ｈ)×Ａ4,000ｈ

*4) メンテナンス活動原価2,380,000円÷メンテナンス時間(Ａ20ｈ＋Ｂ５ｈ)×Ａ20ｈ

*5) 検査活動原価960,000円÷検査回数(Ａ60回＋Ｂ20回)×Ａ60回

この考え方が重要！

*6) 従来の原価計算による製造間接費合計(Ａ10,500,000円＋Ｂ5,250,000円)
－購買・段取・機械作業・メンテナンス・検査の活動原価合計14,910,000円

*7) その他の活動原価840,000円÷直接作業時間の比(Ａ２＋Ｂ１)×Ａ２

*8) 製造間接費合計9,984,000円÷生産量3,000個

この解答速報の著作権はＴＡＣ(株)のものであり，無断転載・転用を禁じます。

(4) 製品単位原価の変化

製品Ａ：従来の原価計算3,500円－ＡＢＣ3,328円＝**172円（ア）**

製品Ｂ：従来の原価計算5,250円－ＡＢＣ5,766円＝－516円

2．検査時間を用いたＡＢＣ　P315脚注3

(1) 検査時間

製品Ｂ：検査回数20回×＠検査時間60分＝20時間

(2) 製品Ｂの検査活動原価

検査活動原価960,000円÷検査時間合計50時間×Ｂ20時間＝384,000円

(3) 製品Ｂ単位当たり製造間接費の変化

検査活動原価の計算以外に変化はないので，単位当たり活動原価の変化を計算すればよい。

(検査時間を用いたＡＢＣ384,000円－検査回数を用いたＡＢＣ240,000円)÷1,000個

＝**144円（イ）**

3．文章の穴埋め　P315脚注3

当初において，当工場は検査活動の内容が同様で各製品に共通していると仮定し，検査回数を活動ドライバーとしてＡＢＣを実施した。その結果，検査活動によって発生する製品単位当たりの活動原価は，各製品とも同額となった。また，製品単位当たりの製造間接費は，従来の原価計算と比べて，製品Ａで(**ア**：**172**)円低くなり，製品Ｂで(＊：516)円高くなった。

一方，当初の仮定に対して，検査活動の内容が各製品で異なるためＡＢＣの計算結果にも反映させるべきだという意見が現場から出された。そこで，当工場は，各製品の検査活動の実態をより詳細に調査した。その結果，合計50時間の検査時間が生じていたこと，および１回当たりの検査時間が製品Ａで(＊：*) 30)分，製品Ｂで60分であることが判明した。これを踏まえて，検査時間を新たな活動ドライバーとして設定し，ＡＢＣの再計算を実施したところ，製品単位当たりの製造間接費は，当初のＡＢＣと比べて，製品Ｂで(**イ**：**144**)円高くなった。

*) (検査時間合計50時間－製品Ｂ20時間)×60分/時間÷製品Ａ検査回数60回

この解答速報の著作権はＴＡＣ(株)のものであり，無断転載・転用を禁じます。

問題10　正解　3　難易度　A

【出題内容】

計算　管理会計総論（品質原価計算）　p248~249

【解　説】

1．品質原価の分類　p248

		現在		1年後
品質適合コスト	予防原価			
	製品設計改善費	12,500万円		12,600万円
	※製造工程自体の検査費 注意!!	2,000万円		1,900万円
	製造工程改善費	18,500万円		19,100万円
	計	33,000万円	⟶	33,600万円
			ア：＋600万円	
	評価原価			
	製品出荷検査費	6,000万円		6,200万円
	購入材料受入検査費	4,400万円		5,200万円
	計	10,400万円	⟶	11,400万円
			イ：＋1,000万円	
品質不適合コスト	内部失敗原価			
	仕損費	10,500万円		8,200万円
	不良品手直費	3,300万円		3,300万円
	計	13,800万円		11,500万円
	外部失敗原価			
	損害賠償費	1,600万円		1,400万円
	製品出荷後補修費	7,700万円		7,500万円
	返品廃棄処分費	2,400万円		2,300万円
	計	11,700万円		11,200万円
	失敗原価計	*) 25,500万円	⟶	22,700万円
			ウ：－2,800万円	

*) 内部13,800万円＋外部11,700万円

2．文章の穴埋め

品質管理活動を充実させることが計画されており，１年後の予防原価は，現在の金額に比べて（ア：600）万円増加し，１年後の評価原価は，現在の金額に比べて（イ：1,000）万円増加する予定である。一方，１年後の失敗原価は，現在の金額に比べて（ウ：2,800）万円減少することが見込まれているため，品質管理活動の充実は有益であると考えられる。　p249

この解答速報の著作権はＴＡＣ(株)のものであり，無断転載・転用を禁じます。

問題13　正解　6　難易度　A

【出題内容】

計算　ＡＢＣ／ＡＢＭ

8-20の問題もそうであったが，ABCの問題は，パズル(逆進)となるケースが多い。慣れておくのがよい。
本問であれば，「どうすれば各製品の売上高が求まるか？」を考える。

【解　説】

１．各製品の損益計算書の作成　P315

(単位：円)	製品Ａ	製品Ｂ	製品Ｃ
売上高	＊1) 9,000,000	＊9) 2,850,000	3,150,000
製造直接費	＊2) 1,600,000	500,000	500,000
段取活動原価	＊3) 1,700,000	850,000	850,000
修繕活動原価	＊4) 500,000	500,000	500,000
設計変更活動原価	＊5) 400,000	400,000	400,000
検査活動原価	＊6) 500,000	250,000	250,000
管理活動原価	＊8) 540,000	＊11) 171,000	189,000
売上総利益	＊7) 3,760,000	＊12) 179,000	461,000
(単位当たり売上総利益)	1,880	＊13) (ア) **358**	922

＊1)　Ａ販売価格4,500円×Ａ販売数量2,000個

＊2)　Ａ単位当たり製造直接費800円×Ａ販売数量2,000個

＊3)　段取活動原価3,400,000円÷段取回数合計(Ａ10回＋Ｂ５回＋Ｃ５回)×Ａ10回

＊4)　修繕活動原価1,500,000円÷修繕回数合計(Ａ10回＋Ｂ10回＋Ｃ10回)×Ａ10回

＊5)　設計変更活動原価1,200,000円÷変更仕様書枚数合計(Ａ10枚＋Ｂ10枚＋Ｃ10枚)×Ａ10枚

＊6)　検査活動原価1,000,000円÷検査回数合計(Ａ20回＋Ｂ10回＋Ｃ10回)×Ａ20回

＊7)　Ａ単位当たり売上総利益1,880円×Ａ販売数量2,000個

＊8)　Ａ売上高9,000,000円－Ａ売上総利益3,760,000円
－Ａ製直・段取・修繕・設計変更・検査活動原価合計4,700,000円

＊9)　Ａ・Ｂ・Ｃ売上高合計＊10) 15,000,000円－Ａ・Ｃ売上高合計12,150,000円

＊10)　Ａ売上高9,000,000円÷Ａ売上高割合　$\frac{\text{Ａ管理活動原価540,000円}}{\text{管理活動原価合計900,000円}}$

＊11)　管理活動原価合計900,000円÷Ａ・Ｂ・Ｃ売上高合計15,000,000円×Ｂ売上高2,850,000円

＊12)　Ｂ売上高2,850,000円－Ｂ原価合計2,671,000円

＊13)　Ｂ売上総利益179,000円÷Ｂ販売数量＊14) 500個

＊14)　Ｂ売上高2,850,000円÷Ｂ販売価格5,700円

２．文章の穴埋め

以上から，製品単位当たりの売上総利益は，製品Ａが1,880円，製品Ｂが(ア：**358**)円，製品Ｃが(＊：922)円である。